

平成22年度病虫害発生予報第7号(10月予報)

今月のトピックス

アフリカシロナヨトウ（イネ科牧草、サトウキビ）

学名：*Spodoptera exempta*

多良間島における牧草被害状況



多良間島における幼虫
道路横断状況



老熟幼虫
(黒化)



雌成虫

10mm

卵塊



生態と被害

多良間島におけるサトウキビ食害状況



成虫の開翅長は雌が約30mm、雄が約28mm。前翅は灰褐色から暗褐色である。シロイチモジヨトウと非常に似ており、さらに斑紋多型であるため外見特徴から判別は困難である。後翅は淡褐色から灰褐色で、褐色の翅脈線および前縁は暗褐色で縁取られる。卵塊で産卵し、幼虫は緑色で白色と黒色の縦線を呈する。なかには、褐色から黒色になり頭部も黒化する個体も見られる。多発生した地域では、幼虫が集団で道路を横断する行動が見られた。フィリピン、マレーシア、スリランカ、オーストラリア、ハワイ、アフリカに分布し、国内では沖縄島、本州(静岡)、小笠原諸島で記録があるが発生は稀である。本年8月、多良間島と西表島で多発し、イネ科牧草、サトウキビへの被害が初めて確認された。イネ科植物を好み、牧草での発生が多い。長距離移動性害虫として知られており、アフリカの牧草地帯では毎年移動して各地で甚大な被害を及ぼしている。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>